

# 「伝わる」情報提供による地域の防災力底上げを目指して

R3.3.1

## ～ 第1回 滋賀県域メディア連携協議会を開催しました ～

琵琶湖河川事務所

- 平成30年7月豪雨の被災を踏まえ、国土交通省がとりまとめた「住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクトレポート（H30.12）」に基づき、より地域に沿った災害情報を発信し、地域コミュニティの防災力を強化することを目的に、『滋賀県域メディア連携協議会』を発足しました。
- 行政が発信する水害・土砂災害等のハザード・リスク情報が、地域の人々自らの避難行動に結びつくよう、マスメディア等と連携した情報提供・共有方法について議論しました。

○日 時：令和3年3月1日（月）15:00～16:30

○場 所：リモート形式による開催

○出席者：日本放送協会 大津放送局、びわ湖放送 株式会社、株式会社 ZTV、彦根地方气象台、滋賀県、琵琶湖河川事務所 計17名



### 【議事内容】

- ・ 滋賀県域メディア連携協議会の目的・規約
- ・ 滋賀県域メディア連携協議会の取組
- ・ 今後のスケジュール

### 滋賀県域の重点取組

河川カメラの活用

危険性のわかりやすい情報提供

地域防災力の向上

### 出席者からの具体的な意見や提案

#### ■ 河川カメラの活用に関して

○ケーブルテレビは比較的放送内容を変更し易いため、普段は平常時の河川映像を放送し、災害発生時には、災害関連の映像に切替えることが可能である。

#### ■ 危険性のわかりやすい情報提供に関して

○琵琶湖河川事務所と彦根地方气象台、あるいは滋賀県と彦根地方气象台による共同会見について、来年度以降に模範的に実施し検証したい。

○台風接近時では、会見場への移動による二次災害も懸念される。災害発生時の共同会見は早期に開催することが重要であるため、画質を気にする必要はなく、リモート形式を検討してはどうか。

○浸水想定区域・洪水予警報・ダム放流や過去の災害記録等の防災関連情報を事前に集めておく必要がある。

○過去の災害状況を映像で示したり、ハザードマップの中に近所のランドマークなどを示したりして「我がこと」に感じてもらうことが重要である。

○共同会見時の画面上に、災害情報に関する二次元コードの表示は可能である。

#### ■ 地域防災力の向上に関して

○防災教育の教材に「マイ・タイムライン」を活用するため、作り方の説明動画(15分位)を検討している。

○「マイ・タイムライン」の関連動画であれば、ケーブルテレビにて週に30回程度配信する事も可能である。

○FM6局が結成する防災ラジオ協議会では、滋賀の防災に関する特別番組を生放送配信している。県で実施する防災カフェでもラジオ局と連携しているため、必要な取組に柔軟に対応できる。



リモート形式による開催状況

### 今後の予定

次回協議会は10月頃を予定し、出水期を振り返ると共に、取組の進捗確認・検証を行います。